

航空従事者学科試験問題

P4

資 格	定期運送用操縦士（飛回船） 准定期運送用操縦士（飛）	題数及び時間	20題 40分
科 目	航空法規等〔科目コード：04〕	記 号	CCCC041770

◎ 注 意（１）「航空従事者学科試験答案用紙」（マークシート）の所定の欄に、「受験番号」、「受験番号のマーク」、「科目」、「科目コード」、「科目コードのマーク」、「資格」、「種類」、「氏名」及び「生年月日」を記入すること。

「受験番号」、「受験番号のマーク」、「科目コード」及び「科目コードのマーク」の何れかに誤りがあると、コンピュータによる採点処理が不可能となるので当該科目は不合格となります。

（２）解答は「航空従事者学科試験答案用紙」（マークシート）に記入すること。

◎ 配 点 1問 5点

◎ 判定基準 合格は100点満点の70点以上とする。

問 1 国際民間航空条約第1条～第3条の条文（a）～（d）のうち、正しいものはいくつあるか。（1）～（4）の中から選べ。

- （a）締約国は、各国がその領域上の空間において完全且つ排他的な主権を有することを承認する。
- （b）この条約の適用上、国の領域とは、その国の主権、宗主権、保護又は委任統治の下にある陸地及びこれに隣接する領水をいう。
- （c）この条約は、民間航空機及び国の航空機に適用する。
- （d）軍、税関及び警察の業務に用いる航空機は、国の航空機とみなす。

（1） 1 （2） 2 （3） 3 （4） 4

問 2 国際民間航空条約第29条（航空機が携行する書類）で、航空機が携行しなければならない書類で誤りはどれか。

- （1）登録証明書
- （2）運用限界等指定書
- （3）各乗組員の適当な免状
- （4）旅客を運送するときは、その氏名、乗込地及び目的地の表

問 3 定期運送用操縦士が旅客を運送する航空運送事業の用に供する航空機に乗り組んで操縦する場合の航空身体検査証明の有効期間（a）～（d）のうち、正しいものはいくつあるか。（1）～（4）の中から選べ。

- （a）2人の操縦者でその操縦を行う場合、交付日における年齢が60歳未満の者は1年である。
- （b）2人の操縦者でその操縦を行う場合、交付日における年齢が40歳以上の者は9月である。
- （c）2人の操縦者でその操縦を行う場合、交付日における年齢が40歳未満の者は2年である。
- （d）2人の操縦者でその操縦を行う場合、交付日における年齢が60歳以上の者は6月である。

（1） 1 （2） 2 （3） 3 （4） 4

問 4 航空英語能力証明について（a）～（d）のうち、正しいものはいくつあるか。（1）～（4）の中から選べ。

- （a）本邦内の地点と本邦外の地点との間において行う航行では航空英語能力証明が必要である。
- （b）本邦内から出発して着陸することなしに本邦以外の国の領域を通過し、本邦内に到達する航行では、航空英語能力証明は必要ない。
- （c）航空英語能力証明が必要な航空機の種類は、飛行機及び回転翼航空機である。
- （d）航空英語能力証明の有効期間は2年である。

（1） 1 （2） 2 （3） 3 （4） 4

- 問 5 航空法施行規則第179条（航空交通管制圏等における速度の制限）の下線部
（1）～（4）で誤りはどれか。
- 1 法第82条の2第1号の空域（航空交通管制圏等）であつて、高度（1）900m
以下の空域を飛行する航空機にあつては、次に掲げる航空機の区分に応じ、それ
それに掲げる指示対気速度
- a ピストン発動機を装備する航空機 （2）170 ノット
b タービン発動機を装備する航空機 （3）200 ノット
- 2 法第82条の2第1号の空域（航空交通管制圏等）であつて、高度（1）900m
を超える空域又は進入管制区のうち航空交通管制圏に接続する部分の国土交通大臣
が告示で指定する空域を飛行する航空機にあつては、指示対気速度
（4）250 ノット
- 問 6 航空法施行規則第154条（航空機の灯火）で航空機が夜間において空中を航行する場
合に航空機が表示しなければならない灯火として正しいものはどれか。
- （1）右舷灯、左舷灯、衝突防止灯
（2）右舷灯、左舷灯、着陸灯
（3）右舷灯、左舷灯、尾灯、衝突防止灯
（4）右舷灯、左舷灯、尾灯、着陸灯
- 問 7 昼間障害標識の説明で正しいものはどれか。
- （1）地表又は水面から60m以上の高さのものの設置者は、国土交通省令で定めるところにより、当該物件のすべてに昼間障害標識を設置しなければならない。
（2）昼間において航空機からの視認が困難であると認められる煙突、鉄塔、柱その他の物件でその高さに比しその幅が著しく狭いものすべてに昼間障害標識を設置しなければならない。
（3）昼間障害標識は、塗色、旗及び標示物で示される。
（4）高光度航空障害灯を設置すべき物件は、昼間障害標識を設置しなければならない。
- 問 8 航空法施行規則第5条の4（飛行規程）で飛行規程に記載されるべき事項として誤りはどれか。
- （1）航空機の概要
（2）航空機の限界事項
（3）通常の場合における各種装置の操作方法
（4）発動機の騒音に関する事項
- 問 9 航空法第65条（航空機に乗り組ませなければならない者）において、当該航空機を操縦することができる者を2人乗り組ませなければならない航空機で誤りはどれか。
- （1）構造上、その操縦のために2人を要する航空機
（2）特定の方法又は方式により飛行する場合に限りその操縦のために2人を要する航空機であつて当該特定の方法又は方式により飛行するもの
（3）旅客の運送の用に供する航空機で計器飛行方式により飛行するもの
（4）旅客の運送の用に供する航空機で飛行時間が4時間を超えるもの

問 10 航空運送事業の用に供する航空機の運航に従事する操縦者に係る最近の飛行経験で正しいものはどれか。

- (1) 操縦する日からさかのぼって180日までの間に、当該航空運送事業の用に供する航空機と同じ型式の航空機に乗り組んで夜間における離陸及び着陸をそれぞれ6回以上行つた経験
- (2) 計器飛行を行う航空機乗組員は、操縦する日からさかのぼって180日までの間に5時間以上の計器飛行（模擬計器飛行を含む。）を行つた経験
- (3) 計器飛行を行う航空機乗組員は、操縦する日からさかのぼって90日までの間に3時間以上の計器飛行（模擬計器飛行を含む。）を行つた経験
- (4) 操縦する日からさかのぼって90日までの間に、当該航空運送事業の用に供する航空機と同じ型式の航空機に乗り組んで離陸及び着陸をそれぞれ3回以上行つた経験

問 11 航空法第71条の3（特定操縦技能の審査等）において、操縦等を行おうとする航空機と同じ種類の航空機について、操縦技能審査員の特定操縦技能審査を受けなくとも特定操縦技能を有することが確認される場合で誤りはどれか。

- (1) 計器飛行証明を受けたとき
- (2) 操縦技能証明を受けたとき
- (3) 操縦技能証明の限定の変更を受けたとき
- (4) 本邦航空運送事業者が運航規程に基づき行う技能審査を受け、これに合格したとき

問 12 機長の義務又は権限等に関する記述で誤りはどれか。

- (1) 航空機又は旅客の危難が生じた場合又は危難が生ずるおそれがあると認める場合は、航空機内にある旅客に対し、避難の方法その他安全のため必要な事項について命令をすることができる。
- (2) 航空機内外を問わず航空機の安全を阻害するいかなる者も拘束できる。
- (3) 航空機の航行中、その航空機に急迫した危難が生じた場合には、旅客の救助及び地上又は水上の人又は物件に対する危難の防止に必要な手段を尽くさなければならない。
- (4) 当該航空機に乗り組んでその職務を行う者を指揮監督する。

問 13 航空法施行規則第166条の2（異常事態の報告）において（a）～（d）のうち、正しいものはいくつあるか。（1）～（4）の中から選べ。

- (a) 空港等及び航空保安施設の機能の障害
- (b) 気流の擾乱その他の異常な気象状態
- (c) 火山の爆発その他の地象又は水象の激しい変化
- (d) 航空機の航行の安全に障害となる事態

(1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4

問 14 航空法施行規則第166条の4（事故が発生するおそれがあると認められる事態の報告）において（a）～（d）のうち、正しいものはいくつあるか。

（1）～（4）の中から選べ。

- (a) 閉鎖中の又は他の航空機が使用中の滑走路への着陸又はその試み
- (b) 飛行中において地表面又は水面への衝突又は接触を回避するため航空機乗組員が緊急の操作を行つた事態
- (c) 緊急の措置を講ずる必要が生じた燃料の欠乏
- (d) 航空機乗組員が負傷又は疾病により運航中に正常に業務を行うことができなかつた事態

(1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4

問 15 空港等付近の航行方法について誤りはどれか。

- (1) 計器飛行方式により離陸しようとする場合であつて空港等における気象状態が離陸することができる最低の気象条件未満であるときは、離陸しないこと。
- (2) 計器飛行方式により着陸しようとする場合であつて進入限界高度よりも高い高度の特定の地点を通過する時点において空港等における気象状態が当該空港等への着陸のための進入を継続することができる最低の気象条件未満であるときは、進入限界高度まで進入することができる。
- (3) 計器飛行方式により着陸しようとする場合であつて進入限界高度以下の高度において目視物標を引き続き視認かつ識別することによる当該航空機の位置の確認ができなくなつたときは、着陸のための進入を継続しないこと。
- (4) 計器飛行方式による進入の方式その他当該空港等について定められた飛行の方式に従うこと。

問 16 航空法第83条の2に定める特別な方式による航行の許可の基準で誤りはどれか。

- (1) 航空機が特別な方式による航行に必要な性能及び装置を有していること。
- (2) 航空機乗組員及び運航管理者が特別な方式による航行に必要な知識について国土交通大臣の講習を受けていること。
- (3) 実施要領が特別な方式による航行の区分及び航空機の区分に応じて、適切に定められていること。
- (4) その他航空機の航行の安全を確保するために必要な措置が講じられていること。

問 17 航空法第70条（酒精飲料等）の条文の空欄（ア）～（ウ）に入る言葉の組み合わせで正しいものはどれか。

（ア）は、酒精飲料又は（イ）その他の薬品の影響により航空機の正常な運航ができないおそれがある間は、その（ウ）を行つてはならない。

（ア）	（イ）	（ウ）
(1) 航空機乗組員	麻酔剤	航空業務
(2) 運航乗務員	麻酔剤	運航
(3) 航空機乗組員	麻薬類	航空機の操縦
(4) 運航乗務員	麻薬類	航空機の運航

問 18 救急用具の記述で正しい組み合わせはどれか。

航空運送事業の用に供する航空機であつて客席数が（ア）を超えるものには、（イ）に供する（ウ）を装備しなければならない。

（ア）	（イ）	（ウ）
(1) 90	救急の用	医薬品及び医療品
(2) 60	航空の用	医薬品及び医療用具
(3) 60	救急の用	医薬品及び医療用具
(4) 30	航空の用	医薬品及び医療品

問 19 航空法施行規則第203条（飛行計画等）で、明らかにしなければならない事項で誤りはどれか。

- (1) 出発地及び移動開始時刻
- (2) 巡航高度及び航路
- (3) 最初の着陸地及び当該着陸地の上空に到着する予定時刻
- (4) 巡航高度における真対気速度

問 20 航空法に定める「乗務割の基準」について誤りはどれか。

- (1) 当該航空機が就航する路線の状況及び当該路線の使用空港等相互間の距離について考慮されていること。
- (2) 当該運航の気象状態について考慮されていること。
- (3) 操縦者については、同時に運航に従事する他の操縦者の数及び操縦者以外の航空機乗組員の有無について考慮されていること。
- (4) 当該航空機に適切な仮眠設備が設けられているかどうかの別について考慮されていること。